

5/29 – Lecture 3.

「クロード・デュシェとジョセフ・ペルネ-デュシェ、象徴的な2人のバラ育種家」

講師：ファビアン・デュシェ氏

ファビアン・デュシェ・バラ園

153 Route du Bajard, 42800 Chateauneuf

<http://www.roseaie-fabien-ducher.com/index.htm>

デュシェ・ファミリー6代目（バラの育種家）

講師：エチエンヌ・ブーレ

オールドローズのアマチュア・カメラマン、世界中で忘れられたバラの再発見に取り組んでいる。ヴァル・ド・マルヌ（ライ・レ・ローズ）のバラ園友の会会員。ヘリテージローズ・ファウンデーションのヨーロッパの広報責任者。

Web上のバラに関するデータベースとして最大の helpmefind.com の管理者。

19世紀の終わりに、リオンはバラの首都と呼ばれていた。1845年に、クロード・デュシェは、リオンのパレ・サン・ピエールでバラを専門とする初の展示会を組織した。世界で最も華麗で熱望されたバラのいくつかを作り出した、多くの偉大なロザリアンの出生地である、この素晴らしい場所リオンに、クロード・デュシェは彼の永続的なナーセリー（種苗場）を設立した。

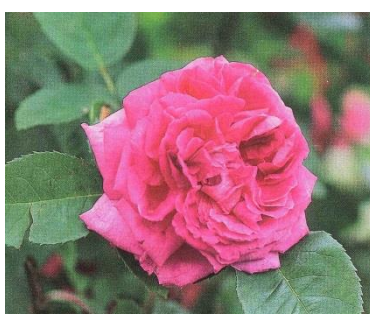
クロード・デュシェの芸術的手腕と技巧は、バラの育種の世界で今なお非常に重要な意味をもっている。彼の研究の結果として生まれた作品は、バラの進化に重要な進展をもたらした。例えば‘レーブ・ドール’、‘グルワール・ドゥ・デュシェ’、‘マドモアゼル・セシル・ブルナー’など多くの偉大な品種は、依然として世界中のコレクターの間で高く評価されている。その後、彼の義理の息子ジョセフ・ペルネ・デュシェは黄やオレンジ色のバラを導入し、父の遺産の栄光を高めた。

有名なカメラマンでありバラの専門家であるエチエンヌ・ブーレと、デュシェ・ファミリーの6代目であるバラの育種家ファビアン・デュシェが、この驚くべき話を紹介する。

レーブ・ドール



グルワール・ドゥ・デュシェ



マドモアゼル・セシル・ブルナー



写真出所) 野村和子(著)『オールド・ローズ花図譜』 小学館